

3 授業実践

(1) 授業実践

指導計画

1 単元名 Lesson 3 I can swim. できることを紹介しよう (第6学年)

2 単元目標

- 積極的に友達や先生の「できること」を尋ねたり、伝えたり、自分の「できること」や「できないこと」を答えたりしようとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 動作を表す語や、「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。 【外国語への慣れ親しみ】
- 英語や日本語の動作を表す語を比較し、共通点や相違点に気付いたり、人それぞれに様々な思いや考えがあることに気付いたりする。 【言語や文化に関する気付き】

3 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
・友達や先生の「できること」「できないこと」について、進んで伝えようとしている。	・動作を表す語や「できる」「できない」という表現を聞いた言ったりしている。 ・「できること」を尋ねたり答えたりしている。	・日本語と英語の音や表現を比較し、その共通点や相違点に気付いている。 ・人それぞれに様々な思いや考えがあることに気付いている。

4 使用する語彙や表現

I can / can't~. Can you~? Yes, I can. / No, I can't.

play, swim, cook, ride, piano, recorder, basketball, soccer, baseball, badminton, table tennis, unicycle

5 単元計画(全4時間) 児童が相手意識をもってコミュニケーション活動をするための手立ては黄色

時	目標・活動	評価		
		コ	慣	気
1	動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知り英語や日本語の動作を表す語を比較し、共通点や相違点に気付く。 I can / can't~. ・ジェスチャーゲーム① (先生を見て当てよう！) ・ジェスチャーゲーム② (みんなで表現しよう！) ・ポインティングゲーム 一人で→ペアで ・パフォーマンス課題について考え、設定する。 ・先生は「できるかな？」クイズ①			○
				・日本語と英語の音や表現を比較し、その共通点や相違点に気付いている。 <行動観察・振り返りカード点検>

2	<p>動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しみ、「できること」を尋ねたり答えたりする表現を知る。</p> <p>Can you~? Yes, I can. / No, I can't.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを並べようゲーム 一人で→ペアで ・Let's Chant Can you swim? ・先生は「できるかな？」クイズ② ・友達にインタビューをしよう ペアで 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・動作を表す語や「できる」「できない」という表現を聞いたり言ったりしている。<行動観察・振り返りカード点検>
3	<p>動作を表す語や「できること」を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Chant Can you swim? ・絵本の読み聞かせ This is ME! ・発表の内容を考える。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「できること」を尋ねたり答えたりしている。<行動観察・振り返りカード点検>
4	<p>積極的に友達や先生の「できること」を伝えようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の練習をする。 ・友達や先生の「できること」を発表したり聞いたりする。 ・ALT のコメントを聞く。 ・活動を振り返る。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や先生の「できること」「できないこと」について、進んで紹介しようとしている。<発表観察> ・人それぞれに様々な思いや考えがあることに気付いている。<行動観察・振り返りカード点検>

6 パフォーマンス課題を設定した単元構成

過程	時	児童の活動	評価		児童の思考 相手意識が働いて いる思考に下線 	教師の指導
			コ	慣気		
課題を考える	1	<p>英語表現に出会う。</p> <p>↓</p> <p>日本語と英語との音声や意味の違いに気付く。</p> <p>↓</p> <p>パフォーマンス課題を設定する。</p> <p>友達や先生の「できること」を發表しよう。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・友達の「<u>できること</u>」を外国語を使って伝えたいな。 ・何人の友達の<u>こと</u>を伝えようかな。たくさん伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を児童に考えさせ、単元を通して主体的に活動させる。 ・児童にとって身近な相手や日常生活について考えさせる。
	2	<p>外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむ。</p> <p>↓</p> <p>・ジェスチャーゲーム ・先生はできるかな？クイズ ・隣の友達にインタビュー</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達の「できること」を予想しながら、聞いたり、尋ねたりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な相手について考えて答えさせるクイズやゲームを通して、単元の中で使用する語彙や表現を、繰り返し聞かせたり、言わせたりしながら慣れ親しませる。
	3	<p>課題の發表に向け、どのような内容をどのように伝えるか、考える。</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本「This is ME!」の読み聞かせを聞き、「できること」について考える。 ・發表内容を考える。 ・英語表現を考える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・友達の「<u>できること</u>」は、<u>たくさんあるな。</u> ・相手に<u>どの事柄</u>を伝えようかな。 ・どの言葉や表現を使ったら<u>伝わるかな。</u> ・伝えるために<u>英語表現を知りたい。</u> ALTの先生に聞いてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の内容から、「できること」には、人を助けることができることもあることに気付かせる。 ・身近な相手の日頃の様子を慣れ親しんできた言葉や非言語を使って考えさせる。
	4	<p>友達や先生の「できること」を發表する。</p> <p>↓</p> <p>活動を振り返る。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・友達の<u>ことを英語を使って伝えることができた。</u> ・友達が<u>自分のことを發表してくれた。</u>うれしい。 ・もっと友達の<u>ことを伝えたい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使って事実を伝えさせ、その理由も加えて發表させる。



7 授業の略案

第 1 時

目標 動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知り英語や日本語の動作を表す語を比較し、共通点や相違点に気付く。 【言語や文化に関する気付き】

時間 (分)	児童の活動	指導者の活動		備考
		T1 : HRT	T2 : ALT	
3	1 あいさつをし、簡単な会話をする。	○英語であいさつをし、ALT の話を聞く。	○英語であいさつをし、簡単な会話をする。	
		よく聞いて、よく見て、考えよう！		
7	2 ジェスチャーゲーム①(先生を見て当てよう!)をする。	○ALT のジェスチャーを見て考えさせる。 ○play、the が付くものと付かないものがあるということに気付かせる。	○ジェスチャーをして、何の動作か考えさせる。 ○動作をしながら児童と一緒に言う。日本語と英語の発音の違いが分かるように言う。	絵カード 電子黒板
10	3 ジェスチャーゲーム②(みんなで表現しよう!)をする。	○グループでジェスチャーをさせる。“I can ~”のときに動作化させ、“I can't ~”のときには残念な表情をさせる。	○“I can” “I can't”の違いが分かるように、ゆっくり言う。	
5	4 ポインティングゲームをする。 一人で→ペアで	○絵を指さしさせる。	○動作を表す表現を言い、指さしをさせる。 動作だけ言う。→文を言う。	テキストブック
10	5 先生はできるかなクイズをする。	○先生たちのできることを予想させる。 ○ALT や HRT の好きなものを予想し、尋ねさせる。 ○ALT が言っていることを理解しているか様子を確認しながらもう一度聞かせる。	○児童が予想した後、先生になったつもりで、できることやできないことを伝える。 ○ゆっくり発音し、児童の様子を見ながら、必要に応じてリピートする。	ワークシート
		単元のゴールを考えよう！		
5	6 パフォーマンス課題について考える。	○単元のゴールに何を発表したいかを考えさせる。 ○友達ができることを見付けることに意欲をもたせるような声掛けをする。		
5	7 本時を振り返る。	○今日のめあてに戻って振り返らせる。	○児童の一生懸命聞いていた態度、ジェスチャーを頑張っていた様子などをほめる。	振り返りカード

第 2 時

目標 動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しみ、「できること」を尋ねたり答えたりする表現を知る。 【外国語への慣れ親しみ】

時間 (分)	児童の活動	HRT の活動	備 考
3	1 あいさつをし、簡単な会話をする。 前時を振り返る。	○英語であいさつをし、HRT の話を聞く。 ○前時の振り返りカードの記述からめあてに沿ったものを紹介する。	
「できる」か「できない」か、よく聞いて考えよう！			
7	2 カードを並べようゲームをする。 一人で→ペアで	○言った順番に、動作を表す語の絵カードを並べさせる。 ○play、the が付くものと付かないものがあつたことを思い出させる。 ○“can” “can't”の違いを注意深く聴きとらせる。	絵カード 電子黒板 テキスト ブック
5	3 チャンツをする。 Can you swim?	○リズムに合わせて慣れ親しませる。	先生写真
10	4 先生はできるかなクイズ②をする。	○先生たちのできることを予想させる。 ○ジェスチャーや絵カードをヒントに考えさせる。 言っていることを理解しているか様子を確かめながらもう一度聞かせる。	
15	5 隣の友達にインタビューをする。 ・予想をさせる。 ・Can you～?を使ってインタビューをする。 ・相手に一言、言葉を返す。	○インタビューをするときに大切なことを押さえる。 ○代表児童とデモンストレーションをする。 ○インタビューの様子を見て、言いくさうにしている児童がいたら、一緒に言う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ Eye contact ・ Smile ・ Reaction ・ まちがい OK </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>C1: Can you ~ ? C2: Yes, I can. / No, I can't. C1: Me, too. / Good. / Wonderful. / OK.</p> </div>	インタビュー プリント
5	6 本時を振り返る。	○今日のめあてに戻って振り返らせる。 めあてに沿った感想を紹介し、考えながら注意深く聴いていた姿を目指す姿として共有する。	振り返り カード

第 3 時

目標 動作を表す語や「できること」を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

時間 (分)	児童の活動	指導者の活動		備考
		T1 : HRT	T2 : ALT	
3	1 あいさつをし、簡単な会話をする。 前時を振り返る。	○英語であいさつをし、ALT の話を聞く。 ○前時の振り返りカードの記述からめあてに沿ったものを紹介する。	○英語であいさつをし、簡単な会話をする。 ○“can” “can’t”の違いを注意深く聴きとったことを想起させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ゴールに向かって、発表内容を考えよう！ </div>				
2	2 チャンツをする。 Can you swim?	○質問部分と答えの部分に分けて言わせる。	○リズムに合わせて慣れ親しませる。	絵カード
10	3 絵本の読み聞かせを聞く。	○絵本“ This is ME! ”を読み聞かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Hi, friends! Plus 絵本 This is ME! を使用します。 </div> ○感じたことを発表させる。 ○「できること」には、いろいろなことがあること、人を助けることができる人もいることに気付かせる。	○ジェスチャーを加えながら HRT と役割分担をして読む。 ○“I can” “I can’t”の違いが分かるように、ゆっくり言う。 ○ゆっくり発音し、児童の様子を見ながら、必要に応じてリピートする。	電子黒板 Hi, friends Plus
25	4 友達や先生の「できること」を発表する準備をする。 a) 何を言うか考える b) どの英語表現を使うか考える c) どのように伝えるか考える	○何人分発表をするか、自分で決めさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> C: ① ○○さん。 ② You can ～。 ③ ～～だからです。 (理由：日本語でも可) </div> ○「できること」を考えたとき、相手に英語で質問をしたり、日頃の様子を思い浮かべさせたりする。 ○絵カードを作って、発表するときの手掛かりに用いてもよいことを伝える。 ○何をどのように伝えたらいいのか迷っている児童に寄り添い、思いを引き出し、相手に伝えたい気持ちをもって考えようとしている態度をほめる。	○どのように表現しようか考えている児童に寄り添い、適切な英語表現をアドバイスする。	ワークシート
5	5 本時を振り返る。	○今日のめあてに戻って振り返らせる。	○児童の一生懸命考えていた態度などをほめる。	振り返りカード

第 4 時

目標 積極的に友達や先生の「できること」を伝えようとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
人それぞれに様々な思いや考えがあることに気付いている。 【言語や文化に関する気付き】

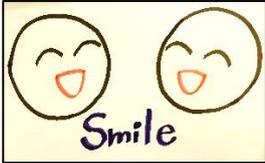
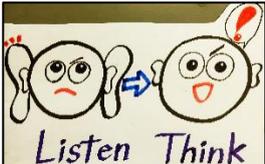
時間 (分)	児童の活動	指導者の活動		備 考
		T1 : HRT	T2 : ALT	
5	1 あいさつをし、簡単な会話を する。 前時を振り返る。	○英語であいさつをし、ALT の話を聞く。 ○前時の振り返りカードの記述からねらいに沿ったものを紹介する。	○英語であいさつをし、簡単な会話を する。	
友達や先生の「できること」を発表しよう！				
5	2 発表する準備を する。	○外国語活動のねらいに沿って、発表の仕方、聴き方をおさえる。 C: ① ○○さん。 ② You can ～～. ③ ～～だからです。 (理由：日本語でも可) ・ Eye contact ・ Listen carefully ・ Think ・ まちがい OK	○“I can” “I can’t” の違いを注意深く聴きとったことを想起させる。 ○代表児童とデモンストレーションをする。 Reaction return ・ I see. ・ Good! ・ Really? ・ OK!	絵カード 電子黒板 ワークシート
30	3 友達や先生の「できること」を発表する。	○慣れ親しんだ英語表現を使って表現していることをほめ、次に発表しようとする児童のモデルにする。 ○「できること」には、いろいろなことがあること、人を助けることができる人もいることに気付かせる。	○発表の様子を見て、言いにくそうにしている児童がいたら、一緒に言う。 ○児童の英語表現をほめながら、よりよい表現の仕方があれば、アドバイスする。	
5	4 本時を振り返る。	○今日のめあてに戻って振り返らせる。	○児童の一生懸命聴いていた態度、友達のできることを発表することができたことなどをほめる。	振り返りカード

授業の実際

研究に関連のある 1, 3, 4 時目について書いています。思考が働いていると捉えられる児童の言動に下線

1 時目 児童の活動	HRT の具体的な手立て (○) と発問等 (T)、児童の反応 (C)								
○パフォーマンス課題を設定する。	<p>○単元のゴールに何を発表したいかを主体的に考えさせた。</p> <p>○より相手意識をもって思考を働かせるために、友達のことを見つめ、友達のことを発表する機会にした。</p> <p>T: 先生たちの「できること」が分かったけど、単元の最後に、英語で、誰の「できること」を伝えたいですか？</p> <p>C: <u>友達の「できること」を発表したい。</u></p> <p>C: <u>先生のことを言いたい。</u></p> <p>T: 「できること」って、どんなことがあるかなあ。</p> <p>T: 何人の友達のことを伝えたいですか？</p> <p>C: 5 人。</p> <p>C: クラスみんなのことを伝えたい！</p> <p>○単元のゴールを児童に決めさせた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> 友達や先生の「できること」を発表しよう！ </div> <p>○発表したい友達や先生の数についての指標を伝えた。</p> <table border="1" data-bbox="571 983 1361 1084" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">判断するめやす (判定基準)</th> <th style="text-align: center;">A</th> <th style="text-align: center;">B</th> <th style="text-align: center;">C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">4 人以上</td> <td style="text-align: center;">1 ~ 3 人</td> <td style="text-align: center;">0 人</td> </tr> </tbody> </table>	判断するめやす (判定基準)	A	B	C		4 人以上	1 ~ 3 人	0 人
判断するめやす (判定基準)	A	B	C						
	4 人以上	1 ~ 3 人	0 人						

3時目 児童の活動	HRTの具体的な手立て(○)と発問等(T)、児童の反応(C)								
<p>○絵本の読み聞かせを聞く。</p> <p>○友達や先生の「できること」を発表する準備をする。</p> <p>a)何を言うか考える。 b)どの英語表現を使うか考える。 c)どのように伝えるか考える。</p>	<p>○絵本“<u>This is ME.</u>”を読み聞かせた。 「できること」には、いろいろなことがあること、人を助けることができる人もいることに気付かせた。 C：<u>できることは、人それぞれ。</u> C：<u>何か必ずできることはある。</u> C：<u>自分にしかできないことを見つけてするのはすごい。</u></p> <p>○「できること」を考えると、相手に英語で質問をしたり、日頃の様子を思い浮かべさせたりした。 ○絵カードを作って、発表するときにもよいことを伝えた。 ○どのように何を伝えたらいいのか迷っている児童に寄り添い、思いを引き出し、相手に伝えたい気持ちで考えようとしている態度をほめた。</p> <p>○発表の仕方の例を提示した。 C：<u>① ○○さん。 ② You can ～～。 ③ ～～だからです。 (理由：日本語でも可)</u></p> <div data-bbox="1002 752 1398 1048" style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">どのように伝えるか考えている児童</p> <p>○英語表現について、ALTにも尋ねさせた。 ○発表する内容についての指標を伝えた。</p> <table border="1" data-bbox="523 1223 1417 1509" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 20%;">A</th> <th style="width: 20%;">B</th> <th style="width: 30%;">C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">判断する めやす (判定基準)</td> <td>友達の「できること」を、英語表現を使って伝え、理由も言うことができる。</td> <td>友達の「できること」を、英語表現を使って伝えることができる。</td> <td>友達の「できること」を伝えることができない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>C：<u>いろいろな人の良いところが思いついた。</u> C：<u>人のできることを考えることが、なんかめっちゃ楽しく感じました。</u> C：<u>跳び箱は、ジャンプボックスかな？</u> C：<u>知っている数少ない外国語を、みんなに<u>伝わるように工夫する</u>のは大変だけど、上手に重ねてみます。</u> C：<u>英語で何と言おうか考えるのが楽しかった。</u></p>		A	B	C	判断する めやす (判定基準)	友達の「できること」を、英語表現を使って伝え、理由も言うことができる。	友達の「できること」を、英語表現を使って伝えることができる。	友達の「できること」を伝えることができない。
	A	B	C						
判断する めやす (判定基準)	友達の「できること」を、英語表現を使って伝え、理由も言うことができる。	友達の「できること」を、英語表現を使って伝えることができる。	友達の「できること」を伝えることができない。						

4時目 児童の活動	HRTの具体的な手立て(○)
<p>○友達や先生の「できること」を発表する。</p>	<p>○外国語活動のねらいに沿って、発表の仕方、聴き方を押さえた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> • Eye contact • Listen carefully • Think • まちがい OK </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Reaction return</p> <ul style="list-style-type: none"> • I see. • Good! • Really? • OK! • Nice! • Me too. • Wow! </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>Smile</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Eye contact</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Think ⇨ Clear voice</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>Listen Think</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Reaction</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>まちがいOK</p> </div> </div> <p>※児童の発表内容の一部については、「3 授業実践(2)検証授業の分析と考察」に記載しています。</p> <p>○慣れ親しんだ英語表現を使って表現していることをほめ、次に発表しようとする児童のモデルにした。</p> <p>○「できること」には、いろいろなことがあること、人を助けることができる人もいることに気付かせた。</p> <p>○発表の様子を見て、言いにくそうにしている児童がいたら、一緒に言いながら支援した。</p> <p>○児童の表現をほめながら、よりよい表現の仕方があれば、アドバイスした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>4時目の板書</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>発表をする児童</p> </div> </div>